

今日の説教のポイント<エフェソの信徒への手紙 1 章 3～14 節>

①聖書の中の「手紙」を読むときに大切なこと

新約聖書の中の「手紙」を読むときのコツは何でしょうか？ 福音書の場合は細かいことに目をやるより話全体で大事なことは何かをつかむことですが、手紙の場合は短い文章に書き手が込めた一言一句の意味を丁寧に見ていくことです。そのためには、繰り返し用いている表現や単語、独特な表現に注目して思い巡らしてみるのもいいでしょう。

②「私たちの（主イエス・キリストの）父である神」（2 と 3）の違いは？

2 節と 3 節で、「私たちの父である神様」と「私たちの主イエス・キリストの父である神様」の二通りが使われています。違いはあるのでしょうか？ 2 節で使われているように私たちは神様に向かって「父なる神様」と呼びかけていいのですが、それは、神様が御子イエス・キリストによって私たちの罪を贖って下さったからそう呼びかけられるのだ、ということを知っている必要があります。

③子は子でも、実子と養子の違いをつかむ！ その時、恵みが分かる！

手紙の著者はそのことを分かっていました。「（私たちを）イエス・キリストによって神の子にしよう」と(5) という表現がそれを表しています。つまり、私たちは神の御子によって神の養子にさせていただいたのです。そうしてもらえた理由も語っています、「神がその愛する御子によって与えて下さった輝かしい恵みを、私たちがたたえるためです」(6) と。

④喜びに溢れている書き手！ その喜びの源はキリストの神にあり！

この箇所、否、この手紙全体を支配しているのは喜びです。しかもそれが、「イエス・キリストにおいて」（14 節までに 11 回）という独特な表現で繰り返し語られます。「キリストにおいて選ばれ」(4)「この御子において、その血によって贖われ、罪を赦され、…神の豊かな恵みによるものです」(7)。ここで大事なことは、「選ばれた私たち」は、キリストを受け入れた者だけに留まらず、全ての者に広がり行く方向で語られているということです（2 章 1 節以下。今信仰を持ったあなたがたも、かつては罪の支配の下にあり死んでいた、と語られている！）。私たちはどんな者も、この「キリストにおいて」救いに入れて下さる神様に招かれているのです！ 私たちの希望の根拠はこの神様にあるのです！